

日本労働年鑑 第54集 1984年版
The Labour Year Book of Japan 1984

第二部 労働運動

XIII 政党

4 日本社会党

6 国際活動

国際活動の概況

飛鳥田委員長は、社会党の国際活動に力を入れ、氏自身が、四月九日第一六回社会主義インターナショナル大会で副議長に再選されている。

交流は質・量とも対社会主義国が中心になっているが、中ソとともに朝鮮民主主義人民共和国との交流・連帯を重視し、また「社会主義インター・アジア太平洋地域社会主義政学会議」(APSO)強化にも意欲をもっている。

八二年下半期にはつぎのような動きがあった。
〔ソ連・東欧圏との交流〕

七月二六日～八月五日、ソ連理論活動家代表団来日、八月二～一一日、第一四次訪ソ活動家代表団、八月二九日～九月七日、第五次青年活動家訪ソ団、九月四～一二日、日ソ特別委員会訪ソ代表団、九月七日、ブルガリア労評代表団飛鳥田委員長を訪問、九月九日～一〇月九日、訪ソ親善代表団、九月一六日～一〇月二日、訪ブルガリア友好親善代表団、九月二〇～二八日、千葉県本部訪ソ(カリニン州)代表団、九月二二日～一〇月三日、社会主義理論センターソ連・東独訪問代表団、九月二四日～一〇月一日、北海道本部訪ソ(サハリン州)代表団、一〇月一二～二一日、東独農業代表団来日、一〇月二〇日、ソ連リトアニア共和国代表団馬場書記長を訪問、一〇月二一～二八日、ソ共中央委員会機関紙代表団来日、一一月三～四日、広島県本部訪ソ(ボルゴグラード州)代表団、一一月一四～一七日、ソ共ブレジネフ書記長の国葬出席(団長・飛鳥田委員長)、一一月一九日、飛鳥田氏チェコ国務大臣と会談、一一月二七日～一二月四日、ソ共活動家代表団飛鳥田委員長を訪問、一二月三日、ポーランド「連帯」調整委員会と八木国際局長会談。

〔朝鮮民主主義人民共和国との交流〕

一一月一〇～二〇日、朝鮮友好代表団、一一月二四日～一二月二四日、朝鮮教育科学代表団来日。
〔西欧との交流〕

七月六日、英国下院議員との会談、七月三〇日、婦人インター議長と田中副委員長会談、一一月三～四日、社会主義インター幹事会、一一月五日、全ギリシャ社会主義運動パンドレウ党首(首相)と飛鳥田氏会談。

〔その他〕

八月二五日、デクエヤル国連事務総長と飛鳥田氏会談、一〇月二日OECD代表と会談。この後、三月一八日、党訪中代表団は八三年後半に飛鳥田委員長が訪中することで合意、四月七～一〇日、社会主義インター総会に八木国際局長を派遣した。

一一月一三～一六日、東京の日本青年館で、「朝鮮の自主的平和統一を支持する青年国際会議」が開かれた。会議は、社会党青少年局、総評青年協、日青協などで構成した日本組織委員会が主催し、四二カ国の青年組織と四つの青年国際組織から、二二〇人が参加した。討議を経て、大会決議などを採択し、朝鮮の分断固定化に反対する運動を強めることを確認した。

中共から正式交流申し入れ

八三年一月、中国共産党から党として正規の関係を持つよう社会党に提案があり、これを受諾、これまで中日友好協会の招待に応じるかたちで訪中団が送られていたが、中国共産党の招待に変わるなど実務的な面でも変化がみられる。新しい関係の第一弾として、社会党の社会主義理論センターと中国社会科学院との理論交流がはかられることになった。

ソ連共産党へ返書

八三年一月、ソ連共産党から書簡が届き、「日本が非核三原則を守ればしかるべき保障措置をとる」という提案があった。三月一〇日、社会党からこれへの返書が出され、ソ連のSS20の極東配備に反対し、千島列島の返還を求めて話し合う用意があると述べた。

日本労働年鑑 第54集 1984年版

発行 1983年11月30日

編著 法政大学大原社会問題研究所

発行所 ●

2001年8月28日公開開始

■ ←前のページ 日本労働年鑑 1984年版(第54集)【目次】 次のページ → ■
日本労働年鑑【総合案内】

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)
